

令和5年福田地区防災研修報告

12月3日(日)に福田地区連合町内会と福田地区自主防災連絡協議会の共催で29名の参加を得て実施しました。平成29年(2017年)以来6年ぶりの実施となった防災研修でしたが、今回は、平成30年7月豪雨で甚大な土砂災害が起きた熊野町と坂町を訪問し、その実態と今後の教訓につながる様々な事例を学ぶことができました。福田地区とも共通する災害事例もあり、今後の福田地区での防災活動に活かしていきたいと思いました。以下、報告します。

1. 熊野町での研修

(1)熊野西防災交流センター

平成30年7月豪雨(西日本豪雨)で一つの団地で12人もの犠牲者が出た大原ハイツがある熊野町を訪問し、被災当時の様子や復旧復興の様子、現在の熊野町の防災体制の実態を見学し、福田地区での防災意識の向上と防災の取り組みについての参考となる事例をいくつも学ぶことができました。

当時の熊野町内や大原ハイツの様子：

7月6日 17時から20時にかけて、1時間雨量が、20ミリ、44ミリ、54ミリと、急激に増加。20時前後に大原ハイツの方で土砂災害が発生。降り始めからの総雨量は、473ミリ(7月平均雨量の2倍)。死者12人、重傷者10人、建物被害163棟の被害が出た。熊野川が氾濫。大原ハイツでは巨大なコアストーンや流木が住宅を直撃。火災が発生したが、水が出ず消火作業に支障。熊野は孤立状態で、自衛隊は海田から歩いて上がってきた。大原ハイツでは災害の3年前の8月に夜間避難訓練もしていたが、今回被災して多くの犠牲者が出た。当時は垂直避難という対応が十分でなかったとの説明もあった。

熊野町の防災対策(防災拠点の整備)： 1. 避難所運営の課題の解消 2. 備蓄物資の運送時間の短縮 3. 長期避難者の衛生環境の確保

- ・防災交流センター： 公民館や町民センターなどを元に、災害後3カ所に改築や新築。普段から住民が行きやすい地域の交流の場とし、「交流」のこたばを施設の名前に入れた。
- ・乳幼児世帯用スペース：授乳や泣き声などに配慮
- ・ペット避難スペース：防臭・消臭の壁紙を使用、ゲージの間は間仕切り、ネコは上に収容、大型犬も可能。ペットへの普段からのしつけがほしいとの要望も
- ・トイレ：すべて便座方式で状況により表示を変えることで男性用トイレを女性用に変更。
- ・シャワールーム、洗濯場、炊事場などは別々の場所に
- ・備蓄倉庫：蓄電池、発電機、ガス発電機、太陽光パネル、段ボールベッド、避難所マットなどを備蓄。防災食に野菜ジュースも追加
- ・防災アプリ、自動音声電話サービス、防災ファックス、登録制防災メール、防災行政無線(個

別受信機 2000 円で配布)、line への配信など

- ・各種訓練や研修:防災減災まちづくり会議(年6回、講演とワークショップを実施)、防災サポーター制度(緊急時に避難所などに無理のない範囲で自分ができること、得意なことを手伝っていただく制度)、夜間避難訓練、ペット避難訓練、小学校5、6 年生や中学生(希望者)への防災・減災講習、避難所泊り体験、避難所運営研修など)

(2)熊野町大原ハイツの見学

熊野町の南西部に位置する大原ハイツは、三石山(標高449m 福田の鷹ノ条山(標高438m)と同様の巨石が目立つ花崗岩からなる山)のふもとに広がる団地で、甚大な土石流災害が発生し、1つの団地だけで12名もの犠牲者が出ました。

今回最大の被害が出た谷に建設された砂防ダムのところでは、巨大な砂防ダムの後ろ側に直径4mを超えるような大きな岩が転がり落ちている様子も見えました。また、砂防ダム横の山の上に、大きさが2mを超える巨大な岩が載っているのも見え、これが昔土石流で出てきたものであることの説明もされました。被災した団地の中では、崩壊した掘り込み車庫がそのままの状態に残されている様子も見学。いかに破壊力の大きい土石流が襲ったかがわかる現場でした。大原祈念公園では、慰霊碑前で黙とうをし、崩壊が発生した三石山の崩壊跡地を見上げながら当時の被災の様子を熊野町の職員の方から説明していただきました。

今回の熊野町の見学では、土石流災害のすさまじさやその復旧復興の様子、今後の災害に対する防災体制の整備の仕方などを学ぶことができました。また、地域での防災活動について、家庭防災から取り組み、共助の地域防災へとつなげていきたいというお話や、夏祭りや諸行事・イベントなどを利用して参加者が知らないうち楽しく、防災が学べる工夫も大事だとのお話もあり、今後の福田での取り組みの参考になると思いました。最後に、参加者全員で慰霊碑の前で写真を撮り、熊野町の職員のお二人に研修のお礼を伝えました。

2. 坂町小屋浦地区での研修

坂町小屋浦地区では、平成30年7月豪雨(西日本豪雨)で、死者15名、行方不明者1名、全半壊家屋653棟(地区全体で796棟)に及ぶなど甚大な被害を受けました。坂町には全国から2万5000人ものボランティアが駆け付け復旧作業にあたったとのこと。現在、9箇所

(1) 坂町災害伝承ホール

坂町災害伝承ホールでは被災当時の様子をまとめた DVD を視聴後、NOP 法人 SKY 協働センター代表の大迫雅俊氏から、被災当時のお話や復興に向けた取り組み、避難訓練の様子等についてお話を伺い、福田地区との意見交流を行いました。

<印象に残ったお話>

1. 子どもを対象にした防災かるたづくりで防災意識を高めた。
2. 避難は誰が呼びかけるのかが大事。高齢者は孫や子どもが口説くと聞いてもらえやすい。
3. ゴミステ情報交換～地域の人が必ずやってくるゴミステーションで防災他色々な情報交換をするのが効果的。誰々さん元気とか、安否確認もできる。
4. 率先避難者になって欲しい。
5. 人が集えるコミュニティハウスは三原にあった仮設住宅を譲り受けて、会長さんが手作りで再建したもので、仮設住宅再利用の県内第1号という話。

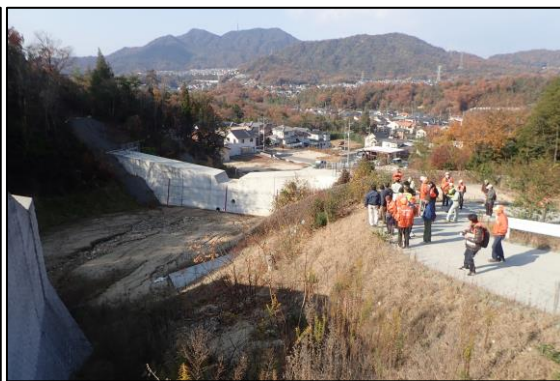
(2)小屋浦北部の砂防ダム

小屋浦北部の天地川支川1の砂防ダムを見学しました。下流側に透過式の堰堤、その上流側に、不透過式の堰堤(令和3年2月26日完成、高さ14.5m、長さ110m)が建設されていました。土石流はこの堰堤で止められると思いますが、水は止められないので、大雨時には早めの避難が必要です。

3. 今回の熊野、小屋浦の研修を実施しての感想

熊野や小屋浦周辺の山の上には巨大なコアストーンがたくさん見られ、災害から5年以上経ても、あちこちに崩壊跡も見られます。土石流は、今回出なかったところは、いずれ近い将来再び土石流が発生するといえます。福田にも鷹ノ条山など、同様な地質で巨大な岩が点在している急峻な山があり、けっして他人ごととは思えません。参加した多くの方からいただいた好評を力に、今回の研修で得られた成果は、今後の福田での防災に活かしていかなければとあらためて思っています。

(記責:越智、写真・文協力者:岡平、播野)



ペット避難スペースでゲージの説明を受ける。 大原ハイツ上の砂防堰堤建設場所で説明を聞く



大原ハイツの大原祈念公園の慰霊碑の前で参加者一同の集合写真



坂町災害伝承ホールで被災当時の様子をまとめた DVD を視聴し、被災当時のお話や復興に向けた取り組みなどのお話を伺い、福田地区との意見交流を行う。



砂防ダム横の巨石(コアストーン)。明治40年の災害以前にここに出てきたもの。土石流は長い年月の間に何回も起きていることがこの巨石があることでわかる。



坂町水害碑の前で集合写真。水害碑右の岩は、平成30年の水害で流出した重さ16トンの花崗岩のコアストーン。今回の研修には、地元から4名の方が参加し、説明や案内をしてくださった。